

ローレン・モレさん講演
『高レベル放射性廃棄物の問題点』

日 時：2006年10月20日

場 所：高知市

〈講演内容〉

- 1899年から2003年までの統計で、日本政府の発表によると、日本人の死因は、抗生物質を使う前は、感染症が多かったですが、現在は癌が一番になっています。戦争中の二年間はあまりに死亡者が多すぎて記載されていません。広島・長崎への原爆投下直後から癌が増え、1948年の大気圏内核実験の後にもまた癌が増え、1970年の日本における原発運転と70年半ばからの原発運転増加によって、さらに癌が増えています。そしてアメリカや中東、ヨーロッパでメタン弾を使うようになってからまた増えています。現在は原爆の放射能が、劣化ウラン弾に置き換わっただけで、長期的影響がでています。
- ローレン・モレさんは1987年に、ユッカマウンテン計画をしていたローレンスリバモアの核研究所で地質学者として働いていました。だがあまりものひどい科学の欺瞞に、1991年に内部告発をしました。原発の必要性は、核開発のためだけです。
- マンハッタン計画にも参加していましたが、2000年に広島・長崎に招かれるまでは、核開発の何たるかがわかりませんでした。これによって、人生が変わりました。核開発・原発・再処理が何をもたらすのかを日本の人たちに伝えたいと思います。また、アメリカが日本に原爆を投下したことを謝罪します。
- 核廃棄物を地下に埋める危険性は、その金属容器（キャニスター）が、ユッカマウンテンともう一箇所において、バクテリアに食べられたことによって明白です。アメリカはユッカマウンテン計画に35億ドル投資しました。BODはその容器が1000年安全とっていましたが、たった5年でバクテリアに全部食べられてしまいました。それは、缶ビールの缶を食べられて、中のビールだけが残ったようなものです。核廃棄物の保存に関しては、何の安全性も技術もありません。今年の夏、核廃棄物の管理は、1万年ではなく10万年必要と裁判所が判決をくだしましたが、5年で駄目だったのにどうして10万年も保存できるでしょう。
- ネバダで核実験が行われてから、ユッカマウンテンに核廃棄物の貯蔵を決めるのに50年かかりましたが、それは単にネバダ選出の国会議員が、他の州の国会議員に負けたというだけです。世界中の核開発は、皆アメリカを見ながらやっていますが、アメリカ政府は、科学の欺瞞をおこなっているだけです。ユッカマウンテン計画で、科学者が疑問を出すと、科学をユッカマウンテンの目的に合わせるようにしてきました。科学の真実性と安全性を無視してきたのです。
- ユッカマウンテンでは、10年間に何百もの地震があります。核廃棄物の貯蔵場は乾燥が保たれないといけません、ユッカマウンテンは火山性の岩であり、水漏れしやすく、貯水場に雨水が貯まります。3年前ネバダ州議会の委員会で、一人の科学者がユッカマウンテンの写真を見て「あの水は何ですか？」と尋ねました。施設の地下にゴムのシートがかけてあったのです。「あそこに水がいくら入るのですか？」とまた訊くと、「1時間に50ガロンです」という答えでした。
- ユッカマウンテンでは火山活動が盛んですが、担当の科学者は「問題なし」と言っていました。ですが、保存施設の地下に温泉があるのは問題です。地下の保存施設は、地下水を汚染します。BODは「実験場でできたプルトニウムは外に出ない」とっていましたが、外に出ていました。核実験場の科学者は「プルトニウムは水に溶けない」と思っていました、バクテリアや有機物から出る酸に反応して、プルトニウムは水に溶け、地下水を通して広がるのです。これはユッカマウンテン計画にとってひどい打撃でした。

- このほかにも、バクテリアがキャニスターを駄目にするとか、地質学的にも問題がありました。
- ・ 2000年に日本へ来た時に岐阜県の瑞浪市東濃へ行きました。水が地下の他の場所に流入する一つは、浸透によるものです。瑞浪市の場合、立坑の中で見た水の浸透がありました。これを見ただけでも、瑞浪市は廃棄物保存に適していません。3日間土地の皆さんや地質学者と話したのですが、集会の時にベテランの地質学者が、正しくないことを言っていたので質問すると「東濃鉦山へ行ってみましょう」ということになり、土地の人たちは歩いて行きましたが、その人は運転手つきの車で来ていたので、それにさせてもらいました。そして車の中で「本当のことは言わないように」といわれたので、現場に着いた時に、そう言われたことを土地の人たちに話しました。そこにゲストブックがあって、名前を書こうとしたら、リバモアやヨーロッパの地質学者の名前があったので、去年何人来たが訊いてみました。その科学者たちは「地下研究所を造る」と言っていたようですが、そこで見た名前は皆、地下核廃棄物貯蔵関係の専門家でした。ユッカマウンテン計画の関係者には、日本人もいました。世界中の国が、どうやって核廃棄物処理をするのか、アメリカに見ています。東濃の方が立坑に連れていってくれたとき「地下水の研究所を造っています」といっていましたが、そのヘルメットには、放射能のマークがついていました。また副市長に会って3時間ミーティングしたのですが、市長はその日の朝、ユッカマウンテンへ出発していました。六ヶ所村、東濃、浜岡で聞いた話はすべてアメリカの情報でした。
 - ・ 日本は太平洋火山帯の上にあって、日本とその周辺地下には、4つのプレートがあります。2002年に東京にいる友人宅に泊まりましたが、その友達は原発と地震の心配をしていました。日本では5年おきならM8以上の地震があると聞いて驚きました。数年前「日本の恐ろしい核の（聞き取れなかった）」を書きましたが、日本は原発から天然ガスに転換するべきです。
 - ・ 日本はカリフォルニアと同じ大きさですが、カリフォルニアには2基の原発があります。その2基の健康被害ですが、州政府の出した資料によると、原発で発電された電気と自閉症の数が比例しています。放射能被害で、癌はほんの少しの部分です。日本では学力低下が問題になっていますが、日本に55基ある原発は、日本の森林も破壊しています。放射能が化学性の被害とあいまって、被害を大きくしているのです。佐賀での講演に福井へ行った女性が来ていましたが「これで福井の森林が破壊されているのがわかりました」と言いました。風が放射能を運ぶので、太平洋側の水も汚染されます。長野の友人の二人の息子も自閉症です。55基の原発に加えて、世界には411の原発があります。六ヶ所再処理工場が始動しはじめたら、原発365基分の放射能を出します。
 - ・ 核実験によって、すい臓癌の死亡率が上がっています。東北大学教授からもらった資料によりますと、1945年から1965年にかけて12倍、1965年以降さらに4倍になっています。地下に核廃棄物貯蔵すれば、地下水が汚染され、さらに被害は広がります。
 - ・ 広島・長崎の被害はひどいものですが、アメリカ自国の被害もひどいものです。ネバダでは、100個の原爆分の被害があります。これがアメリカの地上放射能汚染です。（地図を見せる）核実験は、雨や風によって、他の国にも影響を与えます。
 - ・ 放射能の影響で、漁獲量も減っています。アメリカ政府は、それは化学物質のせいだといっていますが、1945年から1968年にかけて、65パーセントも減っています。フランス、中国で核実験を続けた時期です。大西洋でロシアとアメリカが部分的核実験を停止した時期は、50パーセントまで下がっていた漁獲量が上がりました。
 - ・ 世界の精神衛生上の被害としては、2004年アメリカ医学協会が発表したWHOの調査があります。精神障害がゴビ砂漠の核実験場の風下に当る北京で9.1パーセント、日本で8.8パーセント、原発のないアフリカのナイジェリアでは4.7パーセント、チェリノブイリ事故のあったウクライナでは20パーセント、原発をやめたイタリアで

は8、2パーセント、ドイツは9.1パーセントですが原発を始めた頃には森が死んでいました。電気の75パーセントが原発によるフランスは18パーセント、アメリカは26.3パーセントで、これらは脳障害によってもたらされる体中の障害を意味しています。また放射能に被爆すると、性格が暴力的になるといわれています。大気圏内核実験が始まってから、暴力事件が増えています。

- アメリカの州の調べでは、核実験が増えた時に、子どもの乳歯に含まれるチトロンチウム90が増えています。これは、核実験によってしかできない物質です。1963年にアメリカとロシアが核実験を止めた時には下がっていて、1980年代にまた上がりました。低レベル放射能の長期被曝は、生命体に多くの影響を与えます。日本も含めた原発周辺の6000人の子どもたちから乳歯を集めて調査しています。乳歯の調査は、公衆衛生の上からも、運動の力強いものとなります。
- 放射能ヨウ素は、甲状腺に影響を及ぼし、肥満や甲状腺癌になります。母親が甲状腺に影響を受けると、それが母親の脳に影響を与え、胎児の脳に影響を及ぼします。
- 昨年アメリカの科学者協会が「放射能に安全レベルはない」と発表しました。
- 原発周辺の甲状腺癌は、核実験場周辺よりも多く、MOX燃料を使用すると、この数はさらに上がってきます。原子力発電から放出される放射能は、ガス・粒子・ネガノバという形で一番多く出ています。また、乳癌、子宮癌も影響されます。
- 病気を地図で表すと、糖尿病も影響を受けています。アメリカが一番多く、日本も多くて11パーセントです。世界の糖尿病の地図を見ると、風によって放射能が運ばれた場所が多くなっています。イギリス・オーストラリア・フランスの実験場である南太平洋での核実験による放射能は、南アメリカやアフリカの先端へ流れ、汚染しています。モンスーンに乗って、オーストラリアの放射能は、東南アジアや中東を汚染し、中国やカザフスタンは自国が汚染しないように、風がヒマラヤに吹く時期を避けて実験をして、東南アジアを汚染しています。アメリカは核実験投下物として、10トンの放射能を湾岸地域に運んでいます。
- ニューヨークや他の都市でも同じですが、アメリカでは黒人居住区や貧しい地域で糖尿病が多くなっています。これはアメリカ政府が、放射能に汚染されたミルクをその地域に送り込んでいるからです。これは黒人の大量殺戮です。アメリカ政府は「これは黒人の遺伝的なものだ」といっていますが、アフリカでは糖尿病が少ないので、そうではないと思います。
- 1980年から2002年までの資料によると、糖尿病は1980年から1990年で18パーセント増え、2002年には136パーセントになっています。1991年に劣化ウランの使用を始めて、世界中に放射能をばらまき、日本も影響を受けています。イギリスの核兵器製造により、原発・劣化ウランの影響は日本にまで流れてきています。1991年から2000年にイラク・ユーゴ・アフガニスタンでは何百トンもの劣化ウランが使われました。劣化ウランは核爆弾の中にもあり、原発のプルトニウムからはウラニウムができます。糖尿病にはこのウラニウムの方が影響を与えます。広島・長崎・チェリノブイリや核開発・製造と糖尿病は、深い関係があるのです。
- 1991年の湾岸戦争の後のクリーンアップ作戦に参加した陸軍の人であり階級は上ではありませんが、その人から「ペンタゴンはローレン・モレの発言に怒っていて、その書いた物を毎日毎時間調べている」と聞きました。私は大変勇気付けられ、やる気ができました。
- 病気の地図で放射能とのメカニズムを読み取ると、年齢別に見た糖尿病死亡率では、高齢者になるにつれて、放射能に犯されやすいことがわかります。日本厚生労働省が2004年に出したものを見ても、糖尿病は世界的問題といえます。
- アメリカのニュースによると、低体重の赤ちゃんは、障害や肥満、生涯を通して病気にかかりやすいということですが、浜岡原発近くの赤ちゃんには、低体重が見られます。アメリカでは5ポンドになるまで、病院にいなければなりません。また、乳児に放射能

があつては駄目なのですが、浜岡原発近くの赤ちゃんは、1グラムのカルシウムにつき、上の子どもに比べて高い放射能数値がでています。

- ・ 六ヶ所村の人に会った時「原発は安全ですか」と訊くと「もちろんです」と嘘を言いました。その人に歯の放射能のことを言うと、非常に驚いていました。原発や六ヶ所村や地層処分で、子どもの乳歯を調べることは非常に武器になります。もし皆さんがそれをされるのであれば、私は手伝います。アメリカ政府が大気圏内での核実験を止めなかった時、母親や祖母たちが乳母車を押して抗議しました。周辺の町で『ベビーズスタディ』を立ち上げて、役所へ行くべきです。
- ・ 放射能排出を止めるためには、エネルギーを変えないといけません。岩手県の葛巻町では、電力をバイオマスと太陽光にして、町で必要な電力の180パーセントを作っています。内部告発の時、「核兵器はペンタゴンのため、ペンタゴンはオイルのため」とわかりました。日本には自然の電気エネルギーがたくさんあります。風力や潮の力などです。日本は電気を作って、中国に売るべきです。六ヶ所がフル回転すると、419基の原発をもっているのと同じになります。
- ・ 20年前は、男子の精子の80パーセントは正常でした。今は世界的にDNAに障害のない精子は15パーセントしかありません。
- ・ 「立つ鳥 あとを濁さず」

〈質疑応答〉

1、地層処分の方法は、日本とアメリカで同じですか？

- ・ 金属は細菌に食べられるので、容器がありません。地下では雨水が入るので、水が入らないようにセメントで固めるかということ、そうしてしまうと、何万年も監視続けるということができません。キャニスターに水が入ると、チェリノブイリと同じ事が起きます。チェリノブイリの汚染されたところやイタリアでもユーゴで使った劣化ウランによって、癌が増えています。
- ・ 浜岡へ行った時に「日本はアメリカと全く同じ狂気のさを始めたな」と思いました。これは「殺人・自殺・大量殺戮・生命体全部に対する殺戮」です。核の力はそれだけのものです。
- ・ 800トンの劣化ウランは、長崎のプルトニウム爆弾を8万3000個使ったのと同じことになります。アメリカやイギリスは、1990年以降40万個の長崎型原爆を使いました。日本は、原発事故で消滅する可能性もあります。
- ・ 地球のバイオマスの90パーセントは細菌が作っています。火山、地殻スキン、何マイルも深い北極にも細菌はいて、細菌は金属を好みます。マイクロスコープフォトというもので、細菌がニッケル原子（粒子）を食べているのを見ることがあります。地下深いところどこでも同じです。

2、原発と糖尿病の関係は？

- ・ 劣化ウラン弾と糖尿病の関係には、いくつかのメカニズムがあります。2003年にバクダットから帰ってきたアメリカ人によるとバクダットで糖尿病が増えているという話です。その奥さんが言うには、ご主人は2、3時間バクダットにいただけで、アメリカに帰って2カ月で糖尿病になったということです。クエートにいた女性も、1991年までは何の問題もなかったのに、1991年から子どもが糖尿病になったということです。劣化ウラン弾の貯蔵庫が5日間燃えた後のことです。マンハッタンの教授によると、劣化ウランと糖尿病は関係があるということです。日本の科学者の友人によると、科学者の間ではそれは周知のことで、核計画に影響を及ぼすので、公にされていないだけのようです。

3、津野町では、地下300メートルから1キロの深さに核廃棄物を埋めるということになっていましたが、ユッカマウンテンではどうでしたか？

- ・ そんな自殺的なことは考えられません。細菌が金属を食べる今、そんなことは考

えられません。1年前裁判所から判決が出て、ユッカマウンテン計画は50年もかけた計画でしたが、中止になりました。貯蔵所がどこであれ、保存容器がいるけれど、それが無いのです。ガラス固化体を入れるキャニスターがないのです。連邦裁判所が出した判決で、ユッカマウンテン計画のリーダーは全員解雇されました。再処理とMOXは産業界のためにやっているだけで、ガラス固化体の容器が開発されなければ、話は進みません。ユッカマウンテンの処分方法についてあまり話さなかったのは、キャニスターができるまでは、保存の話にならないからです。ユッカマウンテン計画はすべて金儲けのためで、どうやって幕を下ろすかまで書かれていました。報告書をすべて読んだ人がいますが、それによると、報告書の最後にはすべて「自分たちは、このことに責任を負わない」と書いてあったそうです。ユッカマウンテン計画はすべて嘘で、科学の欺瞞で、水を放射能で汚染するだけのものでした。

- 原子力産業の裏に何があるのかずっとわからなかったのですが、そこには英国女王の姿があるのがわかりました。オーストラリア・カナダ・アフリカなど、元の英国植民地に主なウラン鉱山があります。ロスチャイルドが英国女王の傍にいて、ウランの需要に関与しています。日本のジャーナリストがロスチャイルドについて2冊本を出しています。核兵器を含め、原子力産業に加わる力は、古い英国の資金です。日本語で出版されている本で見たのですが、その絵でわかりました。古き英国の資金、金力は、世界の富の50パーセントを占めています。その銀行の経営者であるユダヤ人の系図は、ローマ時代まで遡ります。

* これは講演会のビデオを見てまとめたもののため、聞き取りにくい部分などもあり、聞き間違えたりしているかもしれませんが、大体においては、間違っていないと思います。

まとめ：二宮美日